

実務経験のある教員等による授業科目

作業療法学科 教育課程（令和6年度以降入学の方）

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			

2 専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達									
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
リハビリテーション概論Ⅰ	15						15	1	◎
リハビリテーション概論Ⅱ		30					30	2	◎
小計	15	30	0				45	3	

3 専門分野

基礎作業療法学									
作業療法概論	30						30	1	◎
レクリエーション療法演習				30			30	1	◎
小計	30	0	0	30	0		60	2	
作業療法評価学									
作業療法評価学概論	30						30	1	◎
作業療法評価学Ⅰ		60					60	2	◎
作業療法評価学Ⅱ			60				60	2	◎
小計	30	60	60				150	5	
作業療法治療学									
作業治療学の基礎			30				30	1	◎
中枢神経障害			30				30	1	◎
骨関節疾患			15				15	1	◎
神経筋疾患				15			15	1	◎
内部障害				15			15	1	◎
神経・心理障害Ⅰ			60				60	2	◎
神経・心理障害Ⅱ				60			60	2	◎
運動・発達障害Ⅰ			30				30	1	◎
運動・発達障害Ⅱ				30			30	1	◎
老年期障害				30			30	1	◎
義肢装具学				30			30	1	◎
小計			165	180			345	13	

総合計	75	90	225	210			600	23	
-----	----	----	-----	-----	--	--	-----	----	--

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。  
臨床実習にあつては1単位40時間とする。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論 I (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	1	1	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と、社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

- ・リハビリテーション、作業療法の概要について説明できる
- ・ADL とは何か、ICF とは何かを説明できる
- ・多職種連携の効果や必要性を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの理念と定義	講義	
第2回	健康と生活機能 (1)	講義	
第3回	健康と生活機能 (2)	講義	
第4回	機能障害とリハビリテーション治療	講義	
第5回	リハビリテーション医療の計画と多職種連携	講義	
第6回	他の職種 CW	講義	
第7回	他の職種 Ns	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 100 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	□小テスト (        %)	□レポート (        %)	□その他 (        %)

教科書	リハビリテーション医学 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	1	2	後期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と、社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

- ・リハビリテーション専門職として関わる代表的疾患についてその概要を説明できる。
- ・SOAPによる記録の基礎を説明できる。
- ・ICFの概要を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	疾患調べ (心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、脊髄損傷、精神科)	講義・演習	
第2回	疾患調べ (心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、脊髄損傷、精神科)	講義・演習	
第3回	疾患調べ (心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、脊髄損傷、精神科)	講義・演習	
第4回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第5回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第6回	観察記録 SOAP	講義	
第7回	観察記録 SOAP	講義	
第8回	ICF	講義	
第9回	ICF	講義	
第10回	ICF	講義	
第11回	リハビリテーション医療における ICT の活用	講義	
第12回	ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル	講義	
第13回	地域包括ケアシステムとリハビリテーション医療	講義	
第14回	災害支援対策とリハビリテーション医療	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
教科書	リハビリテーション医学 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法の全体像を把握する。保健・医療・福祉における作業療法の対象・手段・方法、職業倫理等について学ぶ。

◇到達目標

これから目指す作業療法士という職業について理解を深める。  
各領域における作業療法士の役割について学ぶ。  
プロフェッショナリズムの基礎的な力を養う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義・演習	
第2回	作業療法とは何か	講義・演習	
第3回	作業療法と関連する学問 医学系科目と作業療法	講義	
第4回	作業療法の定義	講義	
第5回	作業療法の対象 ①精神障害	講義	
第6回	作業療法の対象 ②精神障害	講義	
第7回	作業療法の対象 ③高齢期の作業療法	講義	
第8回	作業療法の対象 ④高齢期の作業療法	講義・演習	
第9回	作業療法の対象 ⑤身体障害の作業療法	講義	
第10回	作業療法の対象 ⑥身体障害の作業療法	講義	
第11回	作業療法の対象 ⑦発達障害の作業療法	講義	
第12回	作業療法の対象 ⑧地域における作業療法	講義・演習	
第13回	作業療法の対象 ⑨地域における作業療法	講義	
第14回	作業療法と関連する職種と作業療法士の職業倫理	講義・演習	
第15回	試験およびまとめ	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 40 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 40 %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	予習復習を行い、理解度を高めることを心がけてください。 なお、『作業療法の対象』では、講義順序が変わることがあります。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	後期	必修

◇講義概要

レクリエーションには遊び、各種スポーツ、芸能活動などがあり、室内において少人数で行われるものから、戸外で多数が参加して行われるものまである。これらの活動を通して生じる発散、昇華、洞察等の精神的変化による効果について、実技を通して学ぶ。

◇到達目標

レクリエーションをとおして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	講義・演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践2	講義・演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（            %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（            %）	<input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（   50    %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（            %）	<input checked="" type="checkbox"/> レポート（   50    %）	<input type="checkbox"/> その他（                    %）

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料、その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施。 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する。 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	1	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で実施する評価の基本的な考えや目的、さまざまな評価方法を理解する。  
また、作業療法における共通の評価法を講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・対象者を評価することの意義と目的を知り、説明することができる。
- ・自助具や福祉用具から今後関わる対象者の障害像をイメージできる。
- ・見学実習で作業療法士がどのように対象者の全体像を知ろうとしているのか、指導の下理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・校外学習（バリアフリー展）説明	講義	
第2回	校外学習（バリアフリー展）見学	講義	
第3回	校外学習（バリアフリー展）見学	講義	
第4回	校外学習（バリアフリー展）まとめ・発表準備	講義	
第5回	校外学習（バリアフリー展）発表	講義	
第6回	評価とは	講義	
第7回	見学実習に向けて	講義	
第8回	記録について（SOAP）	講義	
第9回	意識の評価、臨床検査値の読み方	講義・演習	
第10回	バイタルサインの測定	講義・演習	
第11回	形態計測①（四肢長・周径）	講義・演習	
第12回	形態計測②（握力・その他）	講義・演習	
第13回	作業療法理論（カナダ作業療法モデル）①	講義・演習	
第14回	作業療法理論（カナダ作業療法モデル）②	講義・演習	
第15回	筆記試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 60 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（    %） <input type="checkbox"/> 演習評価（    %） <input type="checkbox"/> 小テスト（    %） <input checked="" type="checkbox"/> 発表（ 20 %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（提出物・持ち物管理など 20%）
------	--

教科書	作業療法評価学 第4版（医学書院）
参考図書	
留意事項	形態測定演習時は、評価がしやすいように上下肢の肌を出すことができる服装で参加する。 授業資料をまとめられるようにフラットファイルを一枚準備し、初回授業に持参すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	2	後期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・評価の意義，目的を説明できる
- ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる
- ・測定（検査）方法を修得し実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第3回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第4回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第5回	関節可動域測定	講義・演習	
第6回	関節可動域測定	講義・演習	
第7回	関節可動域測定	講義・演習	
第8回	関節可動域測定	講義・演習	
第9回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第10回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第11回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第12回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第13回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第14回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第15回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第16回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第17回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第18回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第19回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第20回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第21回	排泄機能評価	講義・演習	
第22回	排泄機能評価	講義・演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第24回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第25回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第26回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第27回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第28回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第29回	まとめ	講義・演習	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 30 %）	■実技試験（ 30 %）	■演習評価（ 20 %）
	■小テスト（ 10 %）	■レポート（ 10 %）	□その他（ %）

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版（医学書院） 新 徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版社）
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） PT・OTのための画像のみかた 第2版（金原出版）
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・評価の意義, 目的を説明できる
- ・各評価法の意義, 方法, 目的を説明できる
- ・測定 (検査) 方法を修得し説明、実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	講義・演習	
第2回	協調性検査	講義・演習	
第3回	知覚検査	講義・演習	
第4回	知覚検査	講義・演習	
第5回	知覚検査	講義・演習	
第6回	知覚検査	講義・演習	
第7回	画像評価、筋緊張検査	講義・演習	
第8回	画像評価、筋緊張検査	講義・演習	
第9回	OSCE (協調性検査・知覚検査)、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第10回	OSCE (協調性検査・知覚検査)、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第11回	上肢機能検査	講義・演習	
第12回	上肢機能検査	講義・演習	
第13回	脳神経検査	講義・演習	
第14回	脳神経検査	講義・演習	
第15回	脳神経検査	講義・演習	
第16回	脳神経検査	講義・演習	
第17回	興味・役割・QOL 検査	講義・演習	
第18回	興味・役割・QOL 検査	講義・演習	
第19回	OSCE (上肢機能検査・脳神経検査)、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第20回	OSCE (上肢機能検査・脳神経検査)、課題：国家試験過去問題	実技試験	
第21回	疾患別評価：ケーススタディ (中枢疾患)	講義・演習	
第22回	疾患別評価：ケーススタディ (中枢疾患)	講義・演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第24回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第25回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第26回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第27回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第28回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第29回	まとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 30 %）	■実技試験（ 30 %）	■演習評価（ 20 %）
	■小テスト（ 10 %）	■レポート（ 10 %）	□その他（ %）

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版（医学書院） 新 徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版社）
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） PT・OTのための画像のみかた 第2版（金原出版）
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学の基礎 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で行われる様々な治療学に共通する理念を学ぶ。作業療法評価・介入の原理およびその形態、治療を行う上での心構えと、各種の疾患特性に合わせた治療各論の基礎的な知識や技術の枠組みを学ぶ。

◇到達目標

- ・ADL,IADL とは何か、またその評価方法を具体的に説明することができる。
- ・身体障害領域で行われる種々の治療理論について具体的に説明することができる。
- ・自助具作成を通して、環境調整と日常生活活動支援の関係について理解することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADL と IADL の概要 Barthel Index	講義	小テスト
第2回	評価法 (1) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第3回	評価法 (2) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第4回	自助具作成 (話し合い)	演習	
第5回	評価法 (3) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第6回	評価法 (4) 機能的自立尺度 (FIM)	講義	小テスト
第7回	自助具作成 (作成)	演習	
第8回	ベッド上介助 (寝返り、起き上がり、立ち上がり)・移乗介助の方法1	講義	
第9回	ベッド上介助 (寝返り、起き上がり、立ち上がり)・移乗介助の方法2	講義	
第10回	ADL 支援の実際	講義	
第11回	自助具作成 (発表) 申請書、動画・画像データ提出	演習	
第12回	ROM 運動、筋力増強訓練、協調性練習 1	講義	
第13回	ROM 運動、筋力増強訓練、協調性練習 2	講義	
第14回	片麻痺の訓練 (BRS 法、ボバース概念、PNF、CI 療法)	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (    %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 10 %)
	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト ( 10 %) <input type="checkbox"/> レポート (    %) <input type="checkbox"/> その他 (    %)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
中枢神経障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	前期	必修

◇講義概要

中枢神経障害を生じる代表的疾患（脳血管障害、脊髄損傷等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・中枢神経疾患の特徴を踏まえ、評価の計画・実施を援助の下行える。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション（授業概要説明・作業療法評価とは）	講義	
第2回	症例検討（治療理論に沿った評価）	講義	
第3回	患者モデル評価ガイダンス・評価準備①	講義	
第4回	患者モデル評価準備②	講義	
第5回	患者モデル評価準備③	講義	
第6回	患者モデル来校・評価実施①	講義・演習	
第7回	患者モデル来校・評価実施②	講義・演習	
第8回	患者モデル評価結果まとめ	講義	
第9回	患者モデル評価結果考察・共有	講義	
第10回	患者モデルレポート作成	講義	
第11回	疾患別治療学 脊髄小脳変性症	講義	
第12回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際①（実技を含む）	講義・演習	
第13回	中枢神経障害に対する作業療法治療の実際②（実技を含む）	講義・演習	
第14回	疾患別治療学 脊髄損傷	講義	
第15回	筆記試験	試験	

評価方法	■試験（30%） ■レポート（患者モデル20%、GW報告書5%、最終ポートフォリオ20%） ■その他（授業貢献度、持ち物・提出物管理など25%）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	OT 症例レポート 赤ペン添削ビフォー・アフター
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
骨関節疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	前期	必修

◇講義概要

骨関節障害を生じる代表的疾患（骨折、リウマチ等）の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・ 整形外科疾患に対する作業療法について具体例を示し述べられる。
- ・ リウマチに対する作業療法について具体例を示し述べられる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論 骨関節障害と作業療法	講義	
第2回	下肢、体幹の骨関節障害	講義	
第3回	手の骨折	講義	
第4回	末梢神経損傷	講義	
第5回	屈筋腱損傷	講義	
第6回	関節リウマチ	講義	
第7回	腱板損傷、熱傷	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (        %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (        %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (        %) <input type="checkbox"/> レポート (        %) <input type="checkbox"/> その他 (        %)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	理解度チェックは必ず毎回提出すること。

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経筋疾患 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

末梢神経・筋の障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。  
各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADLへの介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・実力テスト	講義	
第2回	疾患別治療学 ギランバレー	講義	
第3回	疾患別治療学 筋委縮性側索硬化症・筋ジストロフィー	講義	
第4回	疾患別治療学 重症筋無力症・多発性筋炎・皮膚筋炎	講義	
第5回	疾患別治療学 多発性硬化症	講義	
第6回	疾患別治療学 パーキンソン病	講義	
第7回	先進医療について	講義	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験 (50%)      ■レポート (授業レポート 20%、最終ポートフォリオ 20%) ■その他 (持ち物・提出物管理など 10%)
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内部障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	1	後期	必修

◇講義概要

内部障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。  
各疾患の特徴と対象者の個性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・実習に必要な書類作成及び提出期限の遵守などの行動を習慣化できる。
- ・自ら得た経験をポートフォリオとして言語化し振り返ることができる。
- ・内部疾患の特徴を理解し、国家試験過去問題であれば適切な解答を選択肢として選ぶことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション・実力テスト	講義	
第2回	疾患別治療学 糖尿病	講義	
第3回	疾患別治療学 循環器疾患・心電図	講義	
第4回	疾患別治療学 呼吸器疾患	講義	
第5回	疾患別治療学 その他内部疾患	講義	
第6回	喀痰吸引 (講義)	講義・演習	
第7回	喀痰吸引 (実技)	講義・演習	
第8回	筆記試験	試験	

評価方法	■筆記試験 ( 50%)      ■レポート (授業レポート 20%、最終ポートフォリオ 20%) ■その他 (持ち物・提出物管理など 10%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	資料をポートフォリオとしてまとめていくファイルを1部用意し、初回授業に持参すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経・心理障害Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	前期	必修

◇講義概要

精神障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちや生きづらさを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神の病い処遇の歴史と作業療法	講義	
第2回	精神疾患と身体疾患の違い	講義	
第3回	精神科作業療法の概要	講義	
第4回	精神科作業療法の役割と環境設定	講義	
第5回	作業療法の特性	講義	
第6回	精神障害のADL	講義	
第7回	治療構造	講義	
第8回	対象者と作業療法	講義	
第9回	精神科に求められる作業分析	講義	
第10回	作業特性を用いた治療	講義	
第11回	回復状態に応じた作業療法①	講義	
第12回	回復状態に応じた作業療法②	演習	
第13回	精神科作業療法の手順	講義	
第14回	統合失調症スペクトラムと作業療法①	講義	
第15回	統合失調症スペクトラムと作業療法②	講義	
第16回	作業遂行機能の評価	講義	
第17回	気分障害と作業療法①	講義	
第18回	気分障害と作業療法②	講義	
第19回	症例検討	講義	
第20回	中間試験	講義	
第21回	コミュニケーション技法	講義	
第22回	観察からの評価①	演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	観察からの評価②	演習	
第24回	精神認知機能の評価検査①	演習	
第25回	精神認知機能の評価検査②	演習	
第26回	他職種からの情報収集	講義	
第27回	評価した内容を統合と解釈する①	講義	
第28回	評価した内容を統合と解釈する②	演習	
第29回	前期のまとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 65 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	■小テスト ( 25 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (            %)

教科書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)、病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 (メディックメディア)
留意事項	予習、復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経・心理障害Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	後期	必修

◇講義概要

精神障害を生じる代表的疾患の基本的な作業療法について理解する。各疾患の特徴と対象者の個別性を踏まえた治療方法を検討し、ADL 介入時の視点や実践方法を学ぶ。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちや生きづらさを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	認知症と作業療法①	講義	
第2回	認知症と作業療法②	講義	
第3回	神経症性障害と作業療法①	講義	
第4回	神経症性障害と作業療法②	講義	
第5回	パーソナリティ障害と作業療法	講義	
第6回	摂食障害と作業療法①	講義	
第7回	摂食障害と作業療法②	講義	
第8回	うつ病の患者の実際	講義	
第9回	うつ病の治療プログラム立案	演習	
第10回	集団の活用	講義	
第11回	集団力動を理解し、目的に合わせたプログラムの立案	演習	
第12回	医療観察法と司法精神科作業療法①	講義	
第13回	医療観察法と司法精神科作業療法②	演習	
第14回	精神科クリニックと精神科訪問リハの地域での取り組み	講義	
第15回	精神科訪問リハのプログラム立案	演習	
第16回	精神疾患の地域作業療法①	講義	
第17回	精神疾患の地域作業療法②	講義	
第18回	物質関連障害と作業療法①	講義	
第19回	物質関連障害と作業療法②	講義	
第20回	物質関連障害と作業療法③	講義	
第21回	中間試験と復習	講義	
第22回	対象者の身になる技法①	演習	

令和7年度 作業療法学科 シラバス

第23回	対象者の身になる技法②	演習	
第24回	認知行動療法	講義	
第25回	精神障害者の就労支援	講義	
第26回	各疾患に合わせた作業療法アプローチ	講義	
第27回	精神疾患の回復過程に合わせたプログラム立案①	演習	
第28回	精神疾患の回復過程に合わせたプログラム立案②	演習	
第29回	後期のまとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 ( 65 %)	□実技試験 (        %)	□演習評価 (        %)
	■小テスト ( 25 %)	■レポート ( 10 %)	□その他 (            %)

教科書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)、 病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 (メディックメディア)
留意事項	予習、復習をすること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動・発達障害 I (実務経験のある教員等による授業科目)	池田 沙弥香	2	1	前期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。

◇到達目標

- ・発達期に障害を持つことの意味を考え、発達障害領域の作業療法の考え方を理解することができる
- ・各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを理解することができる
- ・定型発達を理解し、発達段階に応じた作業療法のアプローチの視点を説明することができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	発達障害領域の作業療法	講義	
第2回	構造化を採す ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	
第3回	自閉症スペクトラム障害に対するアプローチ	講義・演習	
第4回	TEACCH の理解	講義	
第5回	注意欠如多動性障害に対するアプローチ	講義・演習	
第6回	限局性学習障害に対するアプローチ ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	演習課題
第7回	SST について (大人)	講義・演習	
第8回	SST について (小児) ※コンパニオンアニマル同行授業	講義	
第9回	認知行動療法について (小児)	講義	
第10回	認知行動療法について (大人) ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	
第11回	知的障害に対するアプローチ	講義・演習	
第12回	摂食嚥下障害に対するアプローチ	講義	
第13回	事例検討ー大人の発達障害	講義・演習	演習課題
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 ( 80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (    %) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 ( 20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (    %) <input type="checkbox"/> レポート (    %) <input type="checkbox"/> その他 (    %)
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、予習・復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動・発達障害Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	池田 沙弥香	2	1	後期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。

◇到達目標

- ・発達期に障害を持つことの意味を考え、発達障害領域の作業療法の考え方を理解することができる
- ・各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを理解することができる
- ・定型発達を理解し、発達段階に応じた作業療法のアプローチの視点を説明することができる
- ・家族・地域を含めた支援についての理解を深めることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	作業の見方ー作業の発達と変容	講義	
第2回	発達障害領域の作業療法評価	講義・演習	
第3回	感覚統合機能に対するアプローチ	講義	
第4回	デュシェンヌ型筋ジストロフィーについて	講義	
第5回	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する作業療法アプローチ	講義・演習	
第6回	二分脊椎に対する作業療法アプローチ	講義・演習	小テスト
第7回	分娩麻痺に対する作業療法アプローチ	講義・演習	
第8回	ダウン症に対する作業療法アプローチ	講義・演習	小テスト
第9回	脳性麻痺に対するアプローチ（脳性麻痺について）	講義・演習	
第10回	脳性麻痺に対するアプローチ（各タイプに対する作業療法）	講義・演習	
第11回	脳性麻痺に対するアプローチ（各タイプに対する作業療法）	講義・演習	
第12回	医療的ケア児とその家族	講義・演習	小テスト
第13回	子どもの虐待の作業療法、保護者への対応	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 70 %）	□実技試験（     %）	□演習評価（     %）
	■小テスト（ 30 %）	□レポート（     %）	□その他（     %）

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、予習・復習を行ってください

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年期障害 (実務経験のある教員等による授業科目)	島本 良重	2	1	後期	必修

◇講義概要

<p>老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。</p>
---

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度と作業療法提供施設について、調べ述べるができる</li> <li>・介護保険や各種サービスの内容について、資料を作成し表現することができる</li> <li>・作業療法の介入について、作業療法過程に基づき評価計画を立案することができる</li> </ul>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	高齢期と作業療法 社会的ニーズと高齢期作業療法	講義・演習	
第3回	社会制度	講義・演習	
第4回	作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳	講義・演習	
第5回	高齢期の作業療法	講義・演習	
第6回	高齢期における問題（排泄機能と動作）	講義・演習	
第7回	高齢期における問題（排泄機能，自己管理や支援）	講義・演習	
第8回	高齢者作業療法の実践事例 健康高齢者のケース	講義・演習	
第9回	高齢者作業療法の実践事例 要支援のケース 通所リハでMTDLP	講義・演習	
第10回	高齢者作業療法の実践事例 要介護者のケース 医療から在宅まで	講義・演習	
第11回	高齢者作業療法の実践事例 軽度の認知症高齢者のケース	講義・演習	
第12回	高齢者作業療法の実践事例 中等度の認知症のケース	講義・演習	
第13回	介護老人保健施設においてエンド・オブ・ライフ・ケアを実施したケース	講義・演習	
第14回	介護老人保健施設においてエンド・オブ・ライフ・ケアを実施したケース	講義・演習	
第15回	試験	試験	

<p>評価方法</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>試験 ( 70 %)    <input type="checkbox"/>実技試験 (        %)    <input checked="" type="checkbox"/>演習評価 ( 10 %) </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>小テスト ( 10 %)    <input checked="" type="checkbox"/>レポート ( 10 %)    <input type="checkbox"/>その他 (        %) </p>
--

教科書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第4版 (医学書院)
参考図書	逐次紹介するので参照してください
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること

令和7年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
義肢装具学 (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	1	後期	必修

◇講義概要

<p>義肢、装具、リハビリテーション関連機器（自助具を含む）について学ぶ。基礎知識（定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び構造）と基礎技能（製作、適合判定、訓練）の実習を行う。</p>
---

◇到達目標

<p>* 車いすシーティングについてその概要を説明することができる                  * 義肢・装具の名称や対象疾患(障害)などの基礎知識と適合判定などの基礎技能を身に付ける                  * 基本的なスプリントを作成することができ、対象疾患や使用方法などについて説明することができる</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	義肢装具学 総論	講義	
第2回	スプリントの種類	講義	
第3回	車いすシーティングとは	講義・演習	
第4回	車いすシーティングの実際	講義・演習	
第5回	上肢切断に対する義手	講義	
第6回	上肢切断に対する義手（実例をもとに考える）	講義	
第7回	デジタルアクセシビリティ	講義・演習	
第8回	デジタルアクセシビリティ	講義・演習	
第9回	スプリントについて	講義・演習	
第10回	スプリント製作実習（スプリントの構造・デザイン）	演習	
第11回	スプリント製作実習（装具のチェックアウト）	演習	
第12回	スプリント製作実習（短対立装具）	演習	
第13回	スプリント製作実習（カックアップ）	演習	
第14回	スプリント製作実習（PIP 伸展スプリント）	演習	レポート
第15回	試験（フィードバック含む）	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学（医学書院）
参考図書	適宜案内する
留意事項	毎回理解度チェックを提出すること